

拠点研究（一般推進）中間報告（課題番号：2020A-01）

課題名：乾燥・半乾燥地域における世界遺産の洪水リスクマネジメントに関する国際研究拠点形成

研究代表者：角 哲也

所属機関名：京都大学防災研究所

研究期間：令和2年 4月 1日 ～ 令和 3年 3月 31日（令和 4年 3月 31日まで延長）

共同研究参加者数：20名（所外 8名，所内 12名）

- ・大学院生の参加状況：7名（修士 4名，博士 3名）（内数）
- ・大学院生の参加形態 [現地調査同行，データ分析，数値計算，シンポジウム発表など]

令和2年度 実施状況

ワジのフラッシュフラッド対策では，ソフト対策（降雨－流出モデルに基づく予警報システムの導入，土地利用計画など）とハード対策（洪水貯留施設などの建設）を組み合わせた多面的なアプローチが重要である．そこで，本拠点研究では，ヨルダンやエジプトなどを対象地とし，特に，世界遺産の所在地を中心に，①過去の災害履歴を整理するとともに，②近年の降雨発生情報をもとに，降雨－流出モデルを開発して洪水再現を行うとともに，洪水リスクマップの作成を試行し，③UNESCO，日本の外務省や旅行業界などの関係者にリスク情報を提供するためのツールを開発している．

2020年度は，2020年2月に京大桂キャンパスで実施した「第5回ワジのフラッシュフラッドに関する国際シンポジウム」に引き続き，ヨルダンで開催する「第6回国際シンポジウム」に向けて関係者の連携を進めたが，新型コロナウイルスの影響で海外渡航が全面的に困難となり，オンラインでの打合せ協議が中心となった．

一方で，かねてから準備を行ってきた研究成果の書籍出版（Wadi Book (Wadi Flash Floods - Challenges and Advanced Approaches for Disaster Risk Reduction and Water Harvesting in Arid and Semi-Arid Regions)）については目途が立ち，2021年3月には原稿が完成し，出版社（Springer Nature）に引き渡すことができた．

令和3年度 実施計画

本拠点研究は，2020年度の継続として，2021年9月にヨルダン（アンマンおよびペトラ）で「第6回国際シンポジウム（BUILDING RESILIENCE, BUILDING CONFIDENCE）」を開催すべく準備を進める．会議事務局は Inter-Islamic Network on Water Resources Development and Management (INWRDAM)であり，Hybrid形式での開催実現に向けて，発表論文の投稿，プログラム作成を進める．その際には，これまでに獲得されたフラッシュフラッドのモニタリングやモデリング，また，被害軽減対策（洪水予警報，洪水貯留ダムなどのハード対策），また，洪水リスクを踏まえた土地利用計画への反映などのテーマについて討議を行うとともに，各テーマに応じた若手研修（オンライン）を実施予定である．